

## Success Story from KODAK

# 紙カルテの電子化を目指して Kodak i1220 Plus スキャナーを導入。 オーダシステムからの直接閲覧で職員の 負担を大きく軽減。

## 安心と信頼の医療で 地域に貢献する総合病院

国家公務員共済組合連合会 横浜栄共済病院は、横浜市南部に位置する栄区内唯一の「急性期型総合病院」で、隣接する鎌倉市北部（大船地区）から戸塚区、港南区、金沢区の一部までを診療圏としている。特に横浜市からは近隣の病院・診療所との役割分担や連携を通して地域医療の充実化を図る「地域医療支援病院」の承認を得ている。創設は1939年。戦後は、国家公務員共済組合連合会に経営が継承され70年以上の間、地域の健康度向上に大きく貢献してきた。現在では先進的な診断・医療法を積極的に取り入れると共に、救急患者が高度で安全な医療を受けられることを主な使命としている。

## 新棟建設を契機に 紙カルテの電子化を模索

同病院が、入院患者の紙カルテを電子化しようと検討し始めたのは2010年のこと。契機となったのは5年後に予定されている新棟建設だった。これまで患者が退院すると、紙カルテは診療部診療情報管理科で事務処理され、必要書類と共に製本した後、専用倉庫に保管されてきた。同科が管理する入院カルテは1日平均30～40人、年間で8000人以上にも達し、この倉庫には常



診療部 診療情報管理科課長 浅海 正氏



Web サマリー閲覧システムの中核となるi1220 Plus スキャナー

時15年分の入院・外来カルテが保管されている。その総数は10万冊以上にもものぼる。再診時など医師がカルテを必要とする場合は各科からの貸し出し依頼に基づき、同科が倉庫から取り出して準備するという流れだった。しかしこの倉庫が新棟建設予定地に入ったことで、こうした従来からのカルテの保管・貸し出し方法が見直されることになった。

同科の課長である浅海 正氏は、その経緯について次のように語っている。

「倉庫が取り壊される5年後には15年分のカルテを一旦外部に委託保管しなくてはなりません。その時までには、5年前の今から紙カルテを順次電子化してゆけば、貸し出し頻度の高い新しいカルテはすべて電子化されているはず。これで委託先から取り出す手間やコストが削減できると考えました。しかもオーダシステムと同じ端末で先生が直接閲覧できれば、貸し出し依頼・準備・運搬といった一連の作業も削減され、病院職員の負担も少なくなります。また倉庫で管理するカルテは製本済みのため、これをすべて電子化するには手間とコストが膨大になります。このため新しいカルテから電子化すれば間にあうと考えて、スキャナーシステムの導入を検討しました」

こうした浅海課長の意向を受けて、システム開発に取り組んだのが、コダックの販売代理店で

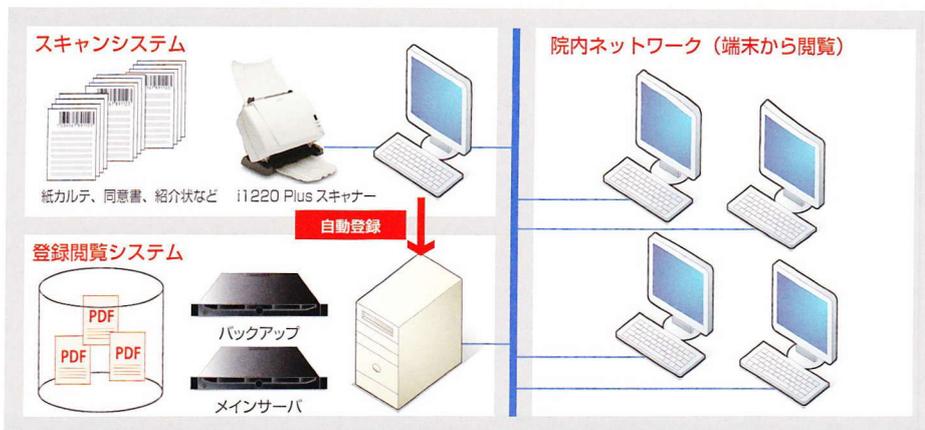
あるホロン株式会社（本社／神奈川県川崎市、<http://www.hln.co.jp/>）だった。同社は医学文献情報のデータベース検索サービス「医中誌WEB（医学中央雑誌刊行会）」の開発・運用をはじめ、「ステッドマン医学大辞典 WEB（メジカルビュー社）」、「今日の診療（医学書院社）」、さらには国内最大の文献検索システム「Cinii（国立情報学研究所）」など、医学・学術分野におけるデータベース開発で豊富な実績を持ち、同病院にとっても信頼できるパートナーとなった。

## 新システムの中心に Kodak i1220 Plus スキャナーを採用

同病院が導入した新システムは、文書の電子化機能とデータベース検索機能を統合したもので、中核となるスキャナーにはコダックのi1220 Plus スキャナーが採用された。その理由について、ホロン社の担当者は次のように語っている。

「コダックのスキャナーは、業務用システムに必要な機能と性能を完備しています。スキャン品質やスピード、信頼性はもちろん、スキャン用ソフトウェアの操作性にもすぐれています。導入前の検証テストでも高く評価されました」

i1220 Plus は ADF（オートドキュメントフィーダ）タイプのカラー両面スキャナーで、多種多様な書類を高速にスキャンできる。たとえカル



Web サマリー閲覧システムの概念図

てに検査済み伝票が貼ってあっても紙づまりが少なく安心だ。またコダック独自のイメージ処理技術「パーフェクトページ」を搭載し、つねに鮮明な画像が得られる点も高く評価された。同時に導入されたコダックの A3 フラットベッドスキャナーは、A3 サイズの関係書類はもちろん、ADFに通せない厚みのある冊子も読み取れると好評だ。

さらに今回のシステムでは、スキャン用ソフトウェア「コダック キャプチャ プロ ソフトウェア」に搭載された文書分割機能が大きな威力を発揮した。これは用紙に印字されたバーコードを読み取って文書を個別ファイルとして自動的に分割・保存するというもの。同病院ではカルテの表紙に患者 ID と入院日をコード化したバーコードを印刷して、全ページをひとつのファイルとして保存できるようにした。これなら複数のカルテを ADF にセットして一気にスキャンしても、それぞれのカルテが個別に分割・保存されるため、作業効率は格段に向上する。ファイル名もバーコードの内容がそのまま反映されるため、データ検索

も容易になる。オーダ端末からの操作もとても簡単だ。端末画面に設置された起動ボタンをクリックすると、その患者の入院履歴が確認でき、必要なカルテを即座に表示できる。さらに追加文書が発生しても、再度スキャンすれば、データが上書きされてつねに最新のカルテを見ることができる。2011 年 1 月から運用を開始した新システムの導入効果について浅海課長は次のように語っている。

「運用から半年が経過してすでに 4000 件以上の入院カルテを電子化しました。これにより原本の貸し出し頻度は昨年比で 10% 以上減ってきました。特に若い先生方が積極的に活用しているようです。またドクターカンファレンスなどでも、すぐにカルテのデータを投影して共有することができ便利だと、とても好評です」

ドクターカンファレンスとは医師、看護師などがカルテを見ながら患者の治療方針などを話し合う症例検討会のこと。カルテが電子化されていればプロジェクトなどで大きく表示でき、情報の共有化が容易になるという。

### 将来の課題まで視野に入れて Web サマリー閲覧システムを導入

同病院が導入した新システムは、浅海課長によって Web サマリー閲覧システム (Web Summary View System - WSS - ) と命名された。5 年後の新棟建設時には紙カルテはすべてスキャン処理されて、原本の貸し出しもなくなるという。並行して同病院では本格的な電子カルテシステムの導入も模索している。電子カルテシステムが導入されると、紙カルテそのものが

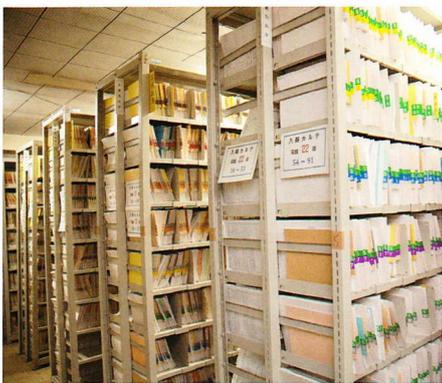


診療情報管理科のオフィス

なくなり、WSS の存在意義もなくなるように思われるが「決してそうではない」と浅海課長は次のように断言する。

「たとえ紙カルテがなくなっても、病理検査報告書や紹介状、患者様の同意書など、紙ベースの重要書類はなくなりません。電子カルテシステムではカバーしきれない、こうした文書の電子化で Web サマリー閲覧システムが本来の威力を発揮すると考えています」

そこには電子カルテシステムとの連携という将来の課題まで視野に入れた同病院の類い希な先見性があった。この先見性こそが、地域の基幹病院として住民から確かな信頼を得てきた原点なのかもしれない。



15 年分の紙カルテが保管されている専用倉庫



この印刷物は、E3PA のゴールド基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています  
E3PA: 環境保護印刷推進協議会  
<http://www.e3pa.com>



### 国家公務員共済組合連合会 横浜栄共済病院

院長: 細川 治

病床数: 430 床

所在地: 〒247-8581 神奈川県横浜市栄区桂町 132 番地

TEL: 045-891-2171 / FAX: 045-895-8351

<http://www.yokohamasakae.jp/>

## コダック 株式会社

ドキュメントイメージング営業本部

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-9 KDX 御茶ノ水ビル  
TEL: 03-5577-1380 FAX: 03-5577-1333  
<http://www.kodak.co.jp/go/business>

©Kodak はイーストマン・コダック社の商標です。

その他、記載の商品名、社名等は、各社商標または登録商標です。

本書で使用されている図や表現方法は説明用のもので、実際のものとは異なる場合があります。

本書の記載内容は、2011 年 10 月現在のものです。

11-10

# Kodak

It's time for you **AND** Kodak

ご案内: ホロン株式会社 営業部 金納 洋

215-0023 川崎市麻生区上麻生 1-10-6-207

TEL 044-873-2080 [kinnou@hln.co.jp](mailto:kinnou@hln.co.jp)